

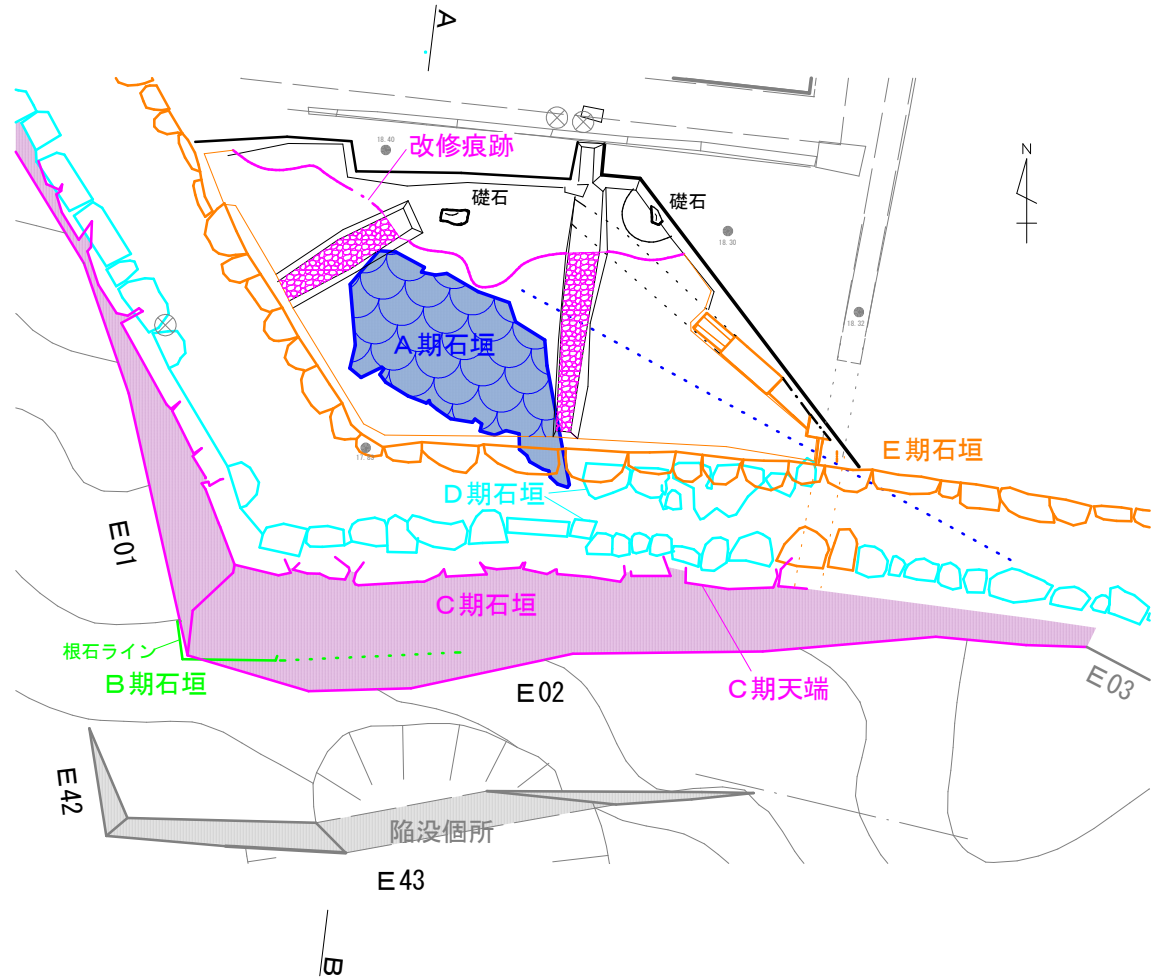


史跡松江城 月見櫓下埋没石垣

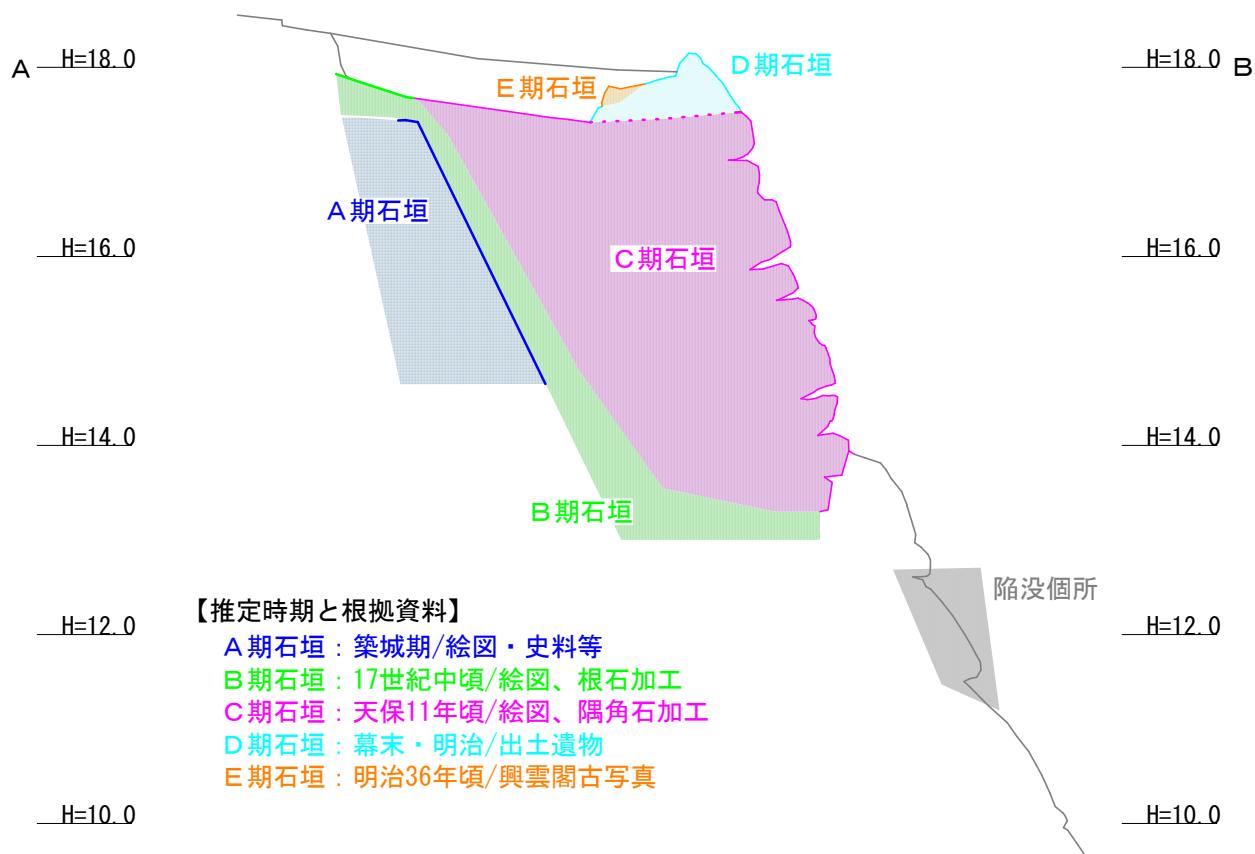
【現地説明会】



【平面図】



【断面図】



月見櫓下石垣 発掘調査成果図 (S=1/80)

開催日時：平成 31 年 2 月 23 日 (土) ①9 時半～、②11 時～

主催：松江市歴史まちづくり部 埋蔵文化財調査室

松江城月見櫓下埋没石垣について

崩落の危険性があった当石垣を修復するため、昨年11月から解体工事を実施したところ、背面から埋没した古い石垣が発見されました。絵図史料から遅くとも17世紀末には埋まってしまった石垣と思われ、堀尾氏による築城（1607年頃）から100年も経たず埋没したと考えられます。

現況の石垣が、割石積みで大海崎石を使用しているのに対し、埋没石垣は野面積みで忌部安山岩を使用していました。加工技術・使用石材共に異なり、築かれた時代の違いを反映していると思われます。

なお、当該石垣の上にあった「御月見櫓」は、埋没石垣の上に建てるには窮屈で、櫓を建てるために現況のように作り替えられた可能性が推測できます。このことについて、実は松江藩に藩替えでやってくる少し前（1633年）に、松平直政が松本城（長野県）において、松江城のものとほぼ同規模の「御月見櫓」を建設したとの記録が残っています。1638年に直政が松江に来て、同じような建物を建てた可能性も考えられ、この石垣は築城後すぐに埋まってしまったのかもしれません。このことは、当該埋没石垣が築城期の石垣の姿をそのまま留める貴重な石垣であると同時に、史料では分からなかった埋もれた築城期の松江城の存在を窺わせる契機になる発見とも言えそうです。

